

MISCHA MAISKY

Cello Recital 2013



「チェロの詩人」マイスキーが謳い上げる音楽は、情熱と生命力に溢れ、人種や国境を越えて、聴く人の心の琴線に触れる。

3度に渡り全曲収録(CD・DVD)し、多くの人々に感動を与えてきたバッハの無伴奏ソナタ。シューマンが残した唯一のチェロとピアノのための作品。チェロとピアノが美しく対話するシューベルトの名曲、アルペジオーネ・ソナタ。アルゲリッチとの共演による日本での白熱のライブ・アルバムが評判を呼んだドビュッシー最晩年の傑作ソナタ。巨匠マイスキーが奏でるチェロの名曲の数々にご期待ください。

ミッシャ・マイスキー (チェロ) Mischa Maisky, Cello

ラトヴィア共和国生まれ。ロシアで学び、のちにイスラエルに移住。以後、ロンドン、パリ、ベルリン、ウィーン、ニューヨーク、東京をはじめ世界の主要コンサートホールで演奏活動を展開、熱狂的な支持を受け続けている。

マイスキーは、自らを「世界人」と位置づける。「イタリア製のチェロにオーストリアとドイツ製の弦を張り、フランスとドイツの弓で弾いています。娘はフランスで生まれ、長男はベルギーで、次男はイタリアで、末っ子はスイスで生まれました。私は日本の車を運転し、スイスの時計をはめて、インドのネックレスをしています。そして人々がクラシック音楽を評価し、楽しんでくれるところではどこでも、そこで家にいるようにくつろぐことができます。」

ドイツ・グラモフォンの専属アーティストとして、この25年の間にマイスキーは30を超える録音をリリース。そこでの共演もウィーン・フィル、ベルリン・フィルをはじめロンドン響、イスラエル・フィル、パリ管、オルフェウス室内管、ヨーロッパ室内管など多岐に渡る。

彼の輝かしいキャリアの中でもハイライトの一つは、2000年の活動である。バッハ・プログラムで実に100以上の演奏会を世界で展開、さらにバッハへの深い尊敬は、無伴奏組曲の3度目のレコーディングという形に結実している。

マイスキーの録音は世界各地で高い評価を得ており、これまでに日本のレコード・アカデミー賞を5回、エコー・ドイツ・シャルプラッテン賞を3回、パリのディスク・グランプリ賞、ディアパソンドール賞の各賞を受賞、グラミー賞にもノミネートされている。

世界を代表するチェリスト、また数々の主要国際音楽祭の常連でもあるマイスキーは、これまでにバーンスタイン、デュトワ、ジュリーニ、マゼール、メータ、ムーティ、レヴァイン、アシュケナーズ、シノーポリ、バレンボイムといった名指揮者たち、さらにアルゲリッチ、ルプー、フレイレ、キーシン、ランラン、P.ゼルキン、クレメル、バシュメット、レーピン、ヴェンゲーロフ、ジョシュア・ベル、ラクリン、ジャニース・ヤンセンほか世界のトップ・アーティストらと共演している。

リリー・マイスキー (ピアノ)

Lily Maisky, Piano

1987年生まれ。パーセル音楽学校に学び、アルゲリッチ、バシキーロフ、カリクシュタインらの指導も受ける。

カーネギーホールの熱帯森林保護団体チャリティ・ガラ・コンサートでデビュー。ドイツ・グラモフォンで父ミッシャの録音に参加、またEMIからは「マルタ・アルゲリッチ・プロジェクト」のライブ録音をリリース。

ソロ・室内楽双方で活躍し、ヴェルビエ音楽祭、フィレンツェ五月祭、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭等に参加。またロイヤル・フェスティヴァル・ホール、ウィーン・コンツェルトハウス、モスクワ音楽院等各国主要ホールに出演。

室内楽では父ミッシャのほか、ラクリン、ヤンセン、カプソン、アンゲリッシュらと共演している。



最新アルバム、好評発売中!

「我が心のスペイン」

ミッシャ・マイスキー&リリー・マイスキー

CD:UCCG-1546 (ユニバーサル・ミュージック) ¥2,500 (税込)

- スペイン民謡組曲 ●グラナドス: 間奏曲 (歌劇「ゴイエスカ」から) ●グラナドス: 「アンダル・サ」 「オリエンタル」 (12のスペイン舞曲集から) ●サラサーテ: プライエーラ ●アルベニス: タンゴ ●カサド: 愛の言葉 ●ラヴェル: ハバネラ形式の小品 ●ファリャ: スペイン舞曲第1番 (歌劇「はかない人生」から) ●アルベニス: コルドバ ●ファリャ: 火祭りの踊り (バレエ「恋は魔術師」から) ●カタルーニャ民謡: 鳥の歌 ●シCHEDRIN: アルベニス風に

AIR G

AIR-G! (FM北海道) のクラシック音楽入門ラジオ番組
「朝クラ!」 (毎週日曜日あさ6:00~6:55放送)
DJ: 高山秀敏 HIDEKI TAKAYAMA
[mail] asakura@air-g.co.jp